



建交労鉄道

岩手地本

2018年1月1日
NO 100号発行責任者
須藤清成

人間が健康に生きて行く為に 100

細胞力は酵素の力で

～見えない細胞力 働いてくれてのおかげさま～

元気なおじいさん、おばあさん。
組み体操もできない、ひ弱な子どもたち。小さい時から外遊びをすれば、たくましい体に育つといわれるが、公園は老人天国でボール遊びも禁止。

静かにゲームに熱中するしかない。大丈夫でしょうか、将来の子どもたちの体は。

日本の主食「お米の力」と、自然エネルギーがいっぱいの「朝の力（太陽）」を借りよう。

細胞

我々の生命を育む力は、細胞が持つ生命力で支えられている。細胞は「核・細胞質・細胞膜」で構成され懸命に働いている。

●タンパク質を作って運ぶ。●エネルギーを生み出す。●ごみを分解して捨てる。●恒常性を保つ—等
そのおかげで毎日、口が動いてよくしゃべり、手が動いて料理が作れて、足を動かせ運動もできる。

ミトコンドリアに酵素がイッパイ

長い年月、元気に過ごせているのは、生きるために必要なエネルギーをミトコンドリアが作ってくれている。

そのミトコンドリアには「酵素が」溶け込んでいて、細胞に入ってきた栄養素を分解してくれる。

肝臓や筋肉、神経のようなエネルギー代謝の盛んな細胞ほど、ミトコンドリアが多く「酵素」もいっぱいです。

色んな物を分解する「酵素」

細胞内でいらなくなった物質を処分してくれるのが「リソソーム」と呼ばれる小さな袋。

この袋の中にもたくさんの強力な酵素が詰まっており、白血球が取り込んだ細胞やそのほかの異物、毒物などが「リソソーム」（酵素）で分解される。

酵素がよろこぶ環境づくり

細胞はどんな時にも我々の生命を支え、つないでくれている。

—イキイキ元気な細胞力を連れるには—
○バランスの良い食事/○適度な運動/○良質な睡眠
よろこびイッパイの生活、細胞内で働く酵素たちの、笑いあふれる環境づくりが大切。

日本の伝統食

昔からにほんの食卓には発酵食品がいっぱい！。
醤油・味噌・納豆やらっきょう、甘酒もそのひとつ。
冬=温めて飲んで身体がポカポカ。
夏=夏バテを乗り切る特効薬。

酵素で腸を活性化しよう!!

腸には大きく分けて善玉菌、悪玉菌、日和見菌がいます。

悪玉菌の数が適度に保たれて腸内環境は抜群になります。

自ら酵素を出す善玉菌を増やし、日和見菌を味方につけることが重要です。

原発ゼロ

老朽原発でもあった東電福島原発の事故の反省から生まれた「原発は40年で廃炉」という40年ルール。このルールには、原子力規制委員会が認めれば、1回に限り20年の運転延長ができるという例外規定があります。

延長はバッドアイデアです。20年延長しても、途中で閉鎖されるアメリカの老朽原発。アメリカでは、20年の延長を許可された原発が、20年もたずに次々に閉鎖しています。1960年代の古い設計の原発は、リノベーションにも限界があります。

多くの電力会社が、巨額を投資して改修し、使い続けることよりも、閉鎖することを経営判断した。オイスタークリーク原発では、とりかえのきかない原子炉圧力容器に問題が起り、10年の期限を残して2019年の閉鎖が決まっています。

圧力容器にヒビが。ヨーロッパでも、原発の老朽化が進んでいきます。スイスには、現存する世界最古の原発であるベッナウ原発があり、今年で運転開始47年。現在は、原子炉圧力容器にヒビが入り、運転停止中です。

ベルギーのドール原発3号機では、やはり原子炉圧力容器に1万本以上のヒビ。また、同じくベルギーのティアンジュ原発の原子炉圧力容器もヒビが見つかり、上記2機の原子炉圧力容器のヒビは最大で18センチだそうです。

原子炉は放射能でいっぱい。だから、圧力容器でしっかり守る必要があります。もちろん、圧力容器自体が壊れれば重大事故になります。日本原子力発電（原発）は24日、来年11月に運転開始から40年を迎える東海第二原発（茨城県、110万キロワット）について、20年間の運転延長を原子力規制委員会に申請した。運転延長はこれまで、関西電力高浜原発1、2号機と美浜原発3号機（いずれも福島県）で認められていた。東京電力福島第一原発と同じ沸騰水型の原発での申請は初めて。福島第一原発事故後の法改正で、原発の運転期間は原則40年になり、規制委が認めれば20年間の運転延長ができることになった。当時の民主党政権は、延長を「極めて例外的」と説明したが、これまでに延長が申請された2原発3基はいずれも認可されている。

東海第二が再稼働するためには、規制委が運転延長を認めるほかにも、新規基準に基づいた審査で「適合」と判断される必要がある。規制委はこれまで想定される津波の高さなど、新基準に適合するかどうかの審査をほぼ終えており、年明けにも「適合」の判断が示される見通し。住民の安全より経営優先で東海第二原発を再延長するべきでない。

あけましておめでとーっ！！

よき新春をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

JRになって安全・安定輸送が揺らいでいます。在来線が危機的状況ですが、一方でリニアに国費を投入しています。赤字路線廃止でなく国鉄「分割・民営」からの30年」の現状を正しく検証し総括することがいま問われています。

安倍内閣が決定した2018年度の政府予算案は、国民の暮らしに冷たく、富裕層・大企業を優遇する政治で貧困と格差をさらに拡大するとともに、9条改憲策動に合わせて、いよいよ本格的に歯止めなき大軍拡への一歩を踏み出す重大な予算案となっています。

憲法9条改憲を阻止するため、3000万、署名を成功させることが大切です。共に頑張りましょう。

執行委員長 須藤清成

2017年12月8日、岩手県民情報センター（アイーナ）において、東北5県（山形、地協の役割として、が欠席）12名の参加で1年の総括が行われました。

総括の中で、組織が若干後退しているが、拡大が進んでいる県もある。

2017～2018総会

東北の現状を正しく分析し手を打たなければならぬ。組織が低下するのは、会議が出来ていないか

これからの取り組み

2018年

1月6日

県春闘年次総会 13時30分

春闘旗開き 18時

17日

サンビル7階大ホール 18時15分

20日

盛岡労働者会 20時

21日

建交労本部春闘学習会

24日

上田公民館 9時

2月2日

いわてローカルユニオン 盛岡地区支部第18回定期大会

2月2日

盛岡地区春闘共闘年次総会 18時15分

2月2日

勤労福祉会館 4階401・402号

4日

憲法学習会 上山弁護士「安倍改憲のねらい」

4日

懇親会を予定しています。

2月21日

第19回東日本地本代表者会議

2月21日

東日本本部上野事務所

2018春闘盛岡地区総行動

全労連春闘方針では

「2月を地域総行動月間」とする

2月21日予定 ※いわて労連と協議

朝 宣伝行動

昼 社会保障改悪反対街頭宣伝

日中 労務局、経営団体要請行動

第19回 建交労鉄道岩手地方本部 定期大会



鉄道岩手地方本部第19回大会が11月19・20日、八幡平タイツで東日本本部下山書記長が参加して開かれました。大会には、OBも傍聴して頂き、貨物会社、盛岡総鉄ロジ子会社の現状等問題点を共有してもらいました。

大会終了後は、恒例の組合員、OB交流会を開催する前に、「分割・民営化」から30年を検証すると題して、下山書記長から講演をいただきました。

須藤委員長は挨拶で、国鉄の「分割・民営化」から30年が経過し、安全がおろそかになり、JR各社で公共性確保の問題が深刻になっている。また、JR貨物における労働条件低下は深刻で、若い社員が会社を辞めている。総選挙で自公政権が圧勝した。今後、憲法問題など厳しい情勢であるが、3000万署名を成功させ前進しよう。

来賓として全国鉄道本部・東日本本部下山書記長から挨拶をいただきました。

も休みが取れず仕事明けで出席することが多い。列車は密度が濃く仕事は大変であり、要員不足です。早めの対策が大事です。

現場では、若い人は酒は飲まない。タバコは吸わない。交流しない一人でスマホがあればよい。このような若者と交流する場を持ちたい。

会社に見切りを 付け退職する社員が多発する

乗務員は、要員がギリギリで、誰かが休めば、休みが取れない状態で、特休が買いきれずにいる。冠婚葬祭



「30年を検証」 講演

下山書記長から、国鉄の「分割・民営化」から30年を迎えてもうけ優先・人減らし合理化で安全・安全輸送が軽視されてきた。

内部留保がある本州旅客会社、儲けは株主に配当。民営・

JR各社の2017年末一時金回答

JR貨物会社に、組合は、18年連続する「ベアゼロ」や手当の削減などにより、一時金を生活費に充当する割合が高くなっている。毎年繰り返される労働者犠牲の施策で社員達の士気は低下する。社員が将来に希望がもてる会社とするためにも、満額回答で応えるべきであると強く申し入れた。

会社名	回答日	支払月数	支払日	平均支払額	基準内賃金	17夏季	年間合計
北海道	11/29	2.025	12/14	519199	256395	2.02	4.045
東日本	11/16	3.18	12/4	1083000	340567	2.91	6.090
東海	11/8	3.00	12/11	961500	320500	3.05	6.050
西日本	3/15	2.72	12/8	861195	316616	2.72	5.440
四国	11/24	2.29	12/8	619000	272726	4.580	4.580
九州	11/24	2.53	12/8			5.110	5.110
貨物	11/17	1.64	12/8	438323	267270	1.600	3.240

分割当時の赤字24兆は現在17兆残っていて国民負担です。儲けは赤字に補填するべきです。ローカル線廃止は進んでいるが、政府はリニアに巨額な投資の支援。30年を検証し国民に訴えていくことが大切と講演。その後17名参加者でOBと楽しく交流会を行いました。

JR貨物・2018年3月 ダイヤ「改正」を提案

ダイヤ「改正」を提案

会社の提案・説明で、年3月ダイヤ「改正」は、「JR貨物グループ中期経営計画2021」における初めての改正であり、商品力の向上や鉄道事業の収支改善を実施する。具体的には中長距離中心の輸送体系への移行を目指し、幹線系の不採算列車グループやフィーダー列車の見直し・再編を行い、収益性の向上を図る。

この提案・説明に対し組合は、中期経営計画2021で鉄道事業の黒字継続を目指しているが、このダイヤ改正提案を見る限り新規列車や輸送力増強列車はあるものの、赤字列車の統廃合など列車計画規模は減少しており、鉄道事業の黒字を継続するには厳しい改正と言わざるを得ない。今回のダイヤ改正における「改正効果」どの位見込んでいるのか。

また、幹線系の赤字列車の廃止及びフィーダー列車の統廃合など毎年行われているが、今後このような施策を続けていくのか。

ダイヤ改正の概要

1. コンテナ列車
(1)顧客要望による新規定型販売案件
①関西・東北間積合せ貨物専用列車
②関東・九州間自動車部品輸送
(2)輸送力の増強
①福山レールエクスプレス号の輸送力増強
②関東発九州向け輸送力増強
③土砂輸送における発生土の増加に伴う輸送力増強
2. 車扱列車
(1)輸送体系の見直しによる収益力の向上
①収益性が低い幹線系列車グループの輸送改善
②フィーダー列車の見直し
(2)拠点の見直し
①駅の見直し
②ORSの収支改善
(3)列車の速達化
3. 業務の効率化
ダイヤ改正に合わせ、各支社で業務の改善・効率性を高め、輸送コスト削減を図る。
4. 設備投資
機関車
6両（WE210：2
5. 列車計画規模
コンテナ4000個（19D：2600個、19G：1400個）
5. 列車計画規模
コンテナ列車179・8千キロ/日
車扱列車10・5千キロ/日
合計190・3千キロ/日
列車計画キロ（1日あたり）は現行と比較して、コンテナ列車1053km減、車扱列車11km減、合計1064km減
6. ダイヤ改正日
2018年3月17日
(土)グループ改正
組合は、単純に不採算（赤字）列車だからといって廃止すればいいというものではない。赤字列車を黒字にするような経営努力が必要である。今後の鉄道貨物輸送をどのように考えているのか。

「とっておきの」

建交労鉄道岩手地本新聞100号を記念して、東日本本部より「とっておきの」特別賞をいただきました。

当初のニュース発行は不定期でしたが、5年程前から毎月一度発行するようになり100号となりました。この間「建交労本部から」2度ほど努力賞をいただきました。今回特別賞びゅう商品券をいただきこれで、地酒を購入し自分自身にご苦労さんまだ頑張っただけ、と独り言を言いながら美味しくいただきました。ありがとうございます。



今後も充実した紙面にしていきます。

送の役割や公共性を活かした取り組みと、トラックドライバー不足が深刻な中長距離中心の輸送体系を構築していく。

具体的な要員配置は支社単位となるが、全体で3〜8名減となる。組合は、全国の職場で要員不足が深刻な事態となっている中、嘱託運転士が多数となる職場も増えてくる。嘱託社員は1人区ではないという考え（0.9人）を会社も示しており、基準人員を増やすことを基本として、出来ない場合は現在員措置をすることが必要である。改正時にマイナス要員でスタートすることがないようにされたい。

組合は、今回の提案・説明での論議は不十分であるため、改めて解明等申し入れを行うこと